

# 世界は多様でおもしろい

所属	岐阜県多治見市立共栄小学校	実践者	安藤 薫 (G)	
対象	小学5年生	時間数	45分×11	
場所	教室 パソコン室 体育館	実践教科	道徳 体育 音楽 家庭科 国語	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナと日本を比べて違うところ、似ているところを見つけ、それぞれの国の良さに気付く。</li> <li>・貧困の輪を解決しようとする取り組みや各分野で活躍する日本人について知る。</li> <li>・違いを認め合うことが平和で豊かな社会につながるということが分かり、自分にできることを考える。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<b>I. みんな違ってみんないい? ガーナってどんな国?</b> ①アイスブレーキング(行ってみたい国は?) ②教師海外研修で撮ったガーナの写真を見る。 ③日本と似ているところ、違うところを見つける(学校・食事・生活等)。 ④違っていてもいいこと、違っていても心配なことを分類する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナの写真(学校、町、生活の様子等)</li> <li>現地で購入した国旗や地図</li> </ul>	
	2-4	<b>II. ガーナ人になり切ろう!</b> ①ガーナの遊び(縄跳び、手遊び等)や荷物を頭で運ぶ体験をする。 ②身近な物でアサラトを作り、演奏する。ガーナの曲を鑑賞し、歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地で購入した楽器</li> <li>動画(縄跳びや遊び、楽器演奏、歌)</li> </ul>	
	5	<b>III. おいしいぞ! ガーナ料理・日本料理</b> ①アイスブレーキング(好きな食べ物は? その理由) ②クイズを通して、ガーナ料理を知る。 ③ガーナの人に日本の料理を紹介するならどんな料理をどのように紹介するか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント(ガーナ料理)</li> </ul>	
	6	<b>IV. チョコレートから世界を考えよう</b> ①チョコレートができるまでや、日本とガーナとのつながりを知る。 ②フェアトレードという言葉や活動、児童労働について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント(チョコレートができるまで)</li> <li>・フェアトレードの動画 谷川俊太郎「そのこ」</li> </ul>	
	7-8	<b>V. 日本と世界のつながりを知ろう</b> ①JICA の資料を読み、自分達の主張を組み立てる。 ②ポスターセッション方式でお互いに読みとったことを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA「どうなっているの? 世界と日本」</li> </ul>	
	9-10	<b>VI. 貧困の輪を断ち切る人々を知ろう</b> ①アイスブレーキング(これまでのガーナに関わる学習で印象に残っていることは?) ②野口英世の生い立ちから学ぶ。 ③身近にある物でアフリカに関係する物を選ぶ。 ④JICA の取り組みを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困の輪のカード</li> <li>・道徳資料「野口英世」</li> <li>・写真(野口研究所等)</li> <li>・JICA 国際理解教育実践資料集</li> </ul>	
	11	<b>VII. みんな違ってみんないい</b> ①アイスブレーキング(3分間で知っている国名を書き出そう) ②違いを認めなかったために起きたこと(戦争、紛争等)を知る。 ③違いを認め合うことが、平和で豊かな社会につながることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真(ガーナで活躍する日本人)</li> <li>・JICA の広報動画</li> </ul>	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とガーナの相違点や類似点を考え合うことで、それぞれの国の良さを感じることができた。</li> <li>・自分達の生活と世界がつながっているということ、様々な側面で考えることができた。</li> <li>・世界が多様であることの良さ、貧困や児童労働の問題、JICA の活動など、児童の視野を広げることができ、授業後も進んで調べ学習や関連する本を読む児童の姿があった。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだ参加型の手法を、今後も様々な場に取り入れていく。</li> <li>・学びを深めるためには、実践授業の時間の確保、他の教職員の理解・協力が必要である。</li> </ul>		
	備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナから持ち帰った物や JICA の資料等は、実践終了後に教室にコーナーを作り展示した。</li> </ul>		

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「みんな違ってみんないい? ガーナってどんな国?」

#### 1 子どもの活動の流れ

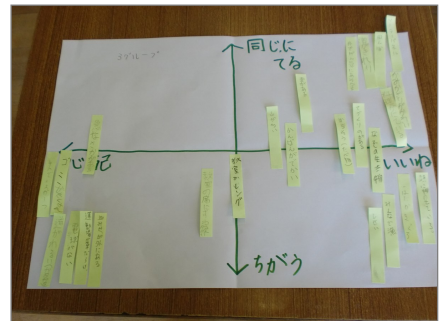
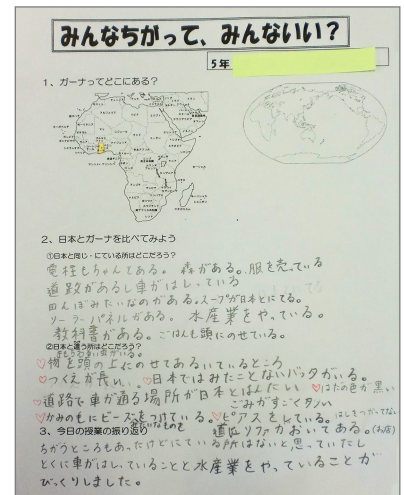
- ① アイスブレイキング「行ってみたい国は?」を班(4~5人)で誕生日順に発表する。
- ② ガーナの写真(学校・食事・生活の様子)を見る。地図でガーナの位置や国の概要を知る。
- ③ 写真から日本と似ているところ、違うところを見つける。
- ④ 班ごとに気付いたことを、日本との相違点、類似点、良い点、心配な点で分類し、全体で共有する。相違点を体験したり、心配な点について話し合ったりするという、これからの学習への見通しをもつ。

#### この時限のねらい

- ・写真を通してガーナに興味・関心をもつ。
- ・ガーナと日本の共通点や、相違点を見つけ、違って良い点、心配な点を考え合い、今後の学習への見通しをもつ。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「行ってみたい国」にアフリカの国を出した子は一人もいなかった。そこで私がガーナに行こうと思った理由を簡単に話し、地図で場所や大まかな国の様子を紹介した。どの子も身近な人が訪れた国ということで、大変興味深く聞いていた。
- ◇ 20枚程の写真を班ごとに回して見たが、驚きや疑問の声で大騒ぎしながら、日本と似ているところ、違う所をどんどん見つけて各自プリント(右図)に記入した。
- ◇ 班で見つけたことを縦軸「似ている~違って」、横軸「いいね~心配だ」で分類する A3 用紙に簡条書きで書き込んだ。子どもたちが「いいね」に書いたのは、「頭に物を乗せて運んでいるのがすごい」「食事が辛そうだけど、おいしそう」「太陽光パネルや田んぼは日本と同じ」「子どもが笑顔」等で、「心配だ」に書いたのは「教室に電球がない」「運動場が草だらけ」「服や靴がボロボロの子がいる」などだった。そこで、これからの授業は「違い」を体験したり、「心配だ」ということについて原因や解決方法を考えていくことを知らせると、次からの授業を楽しみにしている様子だった。



#### 3 使用した教材

- <教材1> 教師海外研修で撮ってきた写真
- <教材2> 現地で購入した国旗や地図

## 2-4 時限目「ガーナ人になり切ろう！」

### 1 子どもの活動の流れ

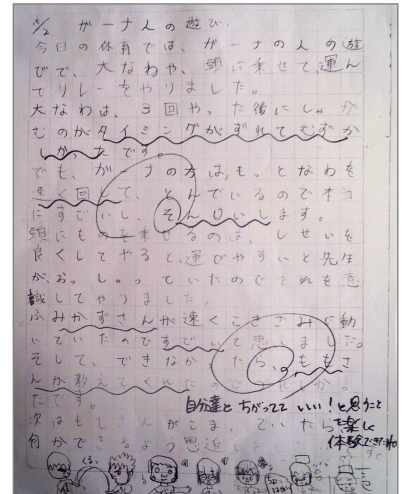
- ① ガーナの遊び(縄跳び、手遊び、アンペ)、荷物を頭で運ぶ写真や動画を見て、実際に自分達も体験してみる。
- ② ガーナの楽器「たいこ」「アサラト」を紹介し、アサラトの演奏の様子を動画で見て、自分達も身近な材料(ペットボトルのキャップと小豆・ビニールひも・セロハンテープ)を使って、アサラトを作り、演奏してみる。ガーナの曲を鑑賞したり、一緒に歌ったり踊ったりして、ガーナの文化に触れる。

#### この時限のねらい

- ・ガーナの子供達の遊び、楽器や歌、踊りを体験することを通して、自分達とは違う、ガーナの文化の良さを感じる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 頭に物を乗せて道行く人々の動画を見て驚き、自分達もやってみたいという気持ちが高まった。段ボールに運動会の玉入れの玉をいくつか入れて歩いてみたところ、「バランスを取るのが難しい」「水を運ぶのは無理」「もっと大きな荷物を運んでみたい」「ガーナ人は神！」という反応が見られた。また、縄跳びは回転の速さや一回間を開けることなどがなかなか真似できず、「ガーナの子は運動神経がいい」と感じた子が多かった。手遊びとアンペ(ジャンプして足の形で対戦し合う遊び)は、「自分達にも似たような遊びがある」「休み時間もやってみたい」など、ガーナ体験を楽しんだ。
- ◇ 現地で購入した楽器(アサラトと太鼓)を見せた後、アサラト演奏の動画を見た。「やってみたい！」ということで、身近にある物でまず作ってみた。できた子から動画に合わせてやり始め、本物のような音は出なくても、試行錯誤しながら動きやリズムを楽しんだ。
- ◇ ガーナの言葉(チュイ語)で、「幸せなら手をたたこう」を歌ったり、リーダーを決めて「チェチェコリ」を歌ったり踊ったりしてクラス全体で盛り上がった。翌朝も口ずさんでいる様子から、ガーナ体験がとても楽しく、ガーナやアフリカに今まで以上に興味をもった様子だった。



### 3 使用した教材

<教材3>現地で購入した楽器

<教材4>教師海外研修で撮った動画 現地協力隊の方から送っていただいた動画

<教材5>YouTube にアップされているアサラト、チェチェコリの動画

## 5 時限目「おいしいぞ！ガーナ料理・日本料理」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング「好きな食べ物は？その理由」を班で名前  
のあいうえお順で発表する。
- ② ガーナ料理を紹介するパワーポイントを見ながら、クイズに  
答える活動を通してガーナの食文化について知る。
- ③ もしガーナの人に日本の  
料理を紹介するなら、どん  
な料理をどのように紹介す  
るか考え、ガーナの料理、  
日本の料理のそれぞれの  
良さを感じる。

ここで問題です。

フーフーは、日本にある食べ物とよ  
く似ています。さてその食べ物は何  
でしょう？

- A そば・うどん
- B おもち
- C ホットケーキ

#### この時限のねらい

- ・ガーナと日本の食文化に触れ、そ  
れぞれの食文化の良さを感じる。



### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ どの子も初めて見るガーナ料理を作る過程や、ガーナの料理の写真を興味深く見ていた。特にフーフーが日本のお餅と似ていることに驚いている様子だった。手で食べる姿や、井戸水をくむ姿、外で火をおこして調理する姿など、日本との違いに驚きつつも、多くの子が「おいしそう」「自分も食べてみたい」という肯定的な感想をもった。
- ◇ ガーナの人に日本の料理を紹介するとしたら、どんな料理をどのように紹介するかというテーマで各自プリントを書いた。出た料理は「お寿司」「ご飯とみそ汁」といった和食で、「箸を使って食べる」「旬のものを使う」など、日本の食生活の豊かさを子どもなりに見つけて発表し合うことができた。

### 3 使用した教材

<教材6> 教師が作ったガーナ料理に関わるパワーポイント

## 6 時限目「チョコレートから世界を考えよう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① チョコレートができるまでのパワーポイントを見ながらクイズに  
答え、ガーナと日本とのつながりを知る。
- ② 家庭科の「買い物の仕方」の学習に出てくる、様々なマーク  
について勉強したあと、フェアトレード、児童労働に関するパ  
ワーポイントを見る。自分達にできることを考える。

#### この時限のねらい

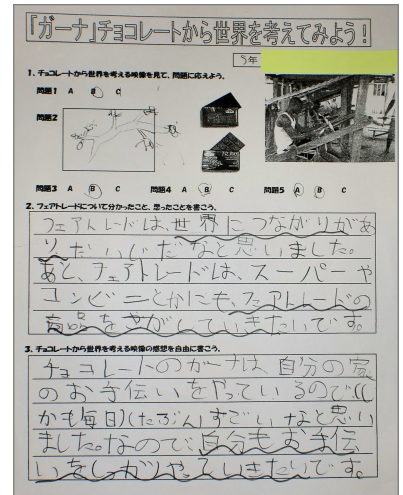
- ・身近なチョコレートが、遠く離れた  
ガーナの人々と深い関わりがあ  
ることを知る。
- ・フェアトレードという仕組みや児童  
労働という現実を知る。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナのチョコレートは某メーカーのガーナチョコレートではないことに驚きながら、原料のカカオや、チョコレートができるまでのパワーポイントを、クイズに答えながら楽しく見た。特にカカオの実のなり方には驚

いていた。そして日本のチョコレートにはガーナの人々の働きが欠かせないことを知り、遠く離れたガーナと日本のつながりを感じていた。

- ◇ 身近な商品についているマーク(ジャスマークやリサイクルマーク等)は多くの子が見たことがあり、その意味を概ね理解していた。そこでフェアトレードマークを提示し、何のマークかクイズを出した。答えはフェアトレードジャパンのアニメ動画で確認した。さらに世界の子どもを児童労働から守る NGO ACE(エース)の児童労働に関する動画を見た。授業の振り返りでは「今度からフェアトレードマークを探して買ってみよう」「世界には学校に行けない子がいることに驚いた」という意見が多かった。



### 3 使用した教材

<教材7> 教師が作ったチョコレートから世界を考えるというパワーポイント



<教材8> フェアトレードジャパンの「フェアトレードミニ講座3分で分かるフェアトレード」  
 <教材9> 世界の子どもを児童労働から守る NGO ACE (エース) 谷川俊太郎さんの詩「そのこ」

## 7-8 時限目「日本と世界のつながりを知ろう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① JICA の資料「どうなっているの？世界と日本(テーマ:食べ物・物・人・エネルギー)」のグラフや文章を読み取る(1つのテーマにつき3人×3班で取り組む)。読み取ったことを、国語の教科書「グラフや表を引用しよう」の例文を参考に自分達の主張を組み立てる。
- ② まず同じテーマの班で集まり、発表のリハーサルを行う。次にポスターセッション方式で発表する時間を設け、他のテーマの子に発表したり、自分の興味関心のあるテーマの発表を聞いたりする。最後に、お互いの発表から自分が考えたことを全体交流する。

#### この時限のねらい

- ・世界と日本が深くつながりあっていることを知る。
- ・仲間と発表したり聞いたりする活動を通して自分の考えを深めることができる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ JICA の資料を配付すると、資料がグラフと簡単な解説、イラストやクイズもあって分かりやすく、どの子どもとも興味をもって活動をスタートさせることができた。3人班で文章を組み立てる手順は「①自分達の主張 ②主張を裏付ける資料の説明・読み取ったこと ③自分達の主張(強調)」であることを確認し、各班ごとに発表原稿を作った。発表は質疑応答まで含めて3分間にし、文章が出来た班は発表練習を行った。

- ◇ 同じテーマごとの発表では、「もっとこうすると分かりやすいよ」など発表の仕方を中心に感想を交流した。次のポスターセッション方式では、他のテーマの発表を聞き、聞いた後には、発表内容についての質疑応答、感想を言う時間を設けた。その後全体を通して思ったことを全員で交流し合ったところ、「他の国と仲良くすることが大事だと思った」「今の自分達の生活があるのは、いろんな国のおかげだと思った」「世界中からたくさんの物や人が日本に届いていることが分かった」などの意見がみられた。最後に JICA 資料の今回配付しなかったページ等に載っている解説やクイズ等で「発展途上国」の現状を日本と比べて紹介した。どの子も日本との違いに驚いたり、改めて日本は恵まれていると感じた様子であった。



### 3 使用した教材

<教材10>国語5年(光村出版)の教科書「グラフや表を引用しよう」

<教材11>JICA 資料「どうなっているの?世界と日本」

## 9-10 時限目「貧困の輪を断ち切る人々を知ろう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「これまでのガーナに関わる学習で印象に残っていることは？」を班で今朝起きた時刻の早い順に発表する。その後何人か発表し、全体で交流する。
- ② ガーナの心配な点の根底に「貧困」があることから、班ごとに貧困の輪のカードを使って考え合う。連鎖を断ち切ろうとした人として「野口英世」を紹介し、偉業を成し遂げられたのは本人の努力と、周りの支えだったことを理解する。最後に今自分を支えてくれる人を思い起こし、感謝の気持ちを改めて言葉にする。
- ③ JICA 国際理解教育実践資料集「私たちの生活とアフリカとのつながりを考える」から、班ごとに自分達の身近な物でアフリカとつながりのある物を考える。貧困の連鎖を断ち切るためにガーナで活躍する日本人を紹介する。最後に JICA の広報動画を視聴し、感想を全体で交流する。

#### この時限のねらい

- ・貧困の連鎖を理解する。
- ・野口英世の生い立ちから、志をもって努力することの大切さ、周囲の支えに感謝する心情を養う。
- ・JICA の活動を知り、その重要性を理解する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 子どもたちは、自分達が体験した楽しいことだけでなく、学校の設備や町の様子など心配だと思うこともよく覚えていた。貧困の輪のカードを使って考え合う活動では、班で活発に意見を出し合ったり、貧困の連鎖を断ち切る方法として「フェアトレード」「募金」などの意見を発表したりできた。
- ◇ 野口英世の話はやや長くて言葉が難しいかと思ったが、子どもの意見から、「目標に向かって努力する」「周りの人に感謝する気持ち」とまとめることができた。この日は保護者参観授業で、「自分も家族に支えられていることに感謝したい」とお家の人に向かって話す子どもの姿が微笑ましかった。
- ◇ 身近な物がアフリカとつながっていることに驚いた様子だった。ガーナで出会った人の紹介や、JICA の広報動画も大変熱心に視聴し、世界で活躍する日本人や団体に敬意や憧れを持った子が多かった。



### 3 使用した教材

<教材12> (公財)愛知県国際交流協会 わたしたちの地球と未来「貧困の輪」

<教材13> 私たちの道徳 「野口英世」の話

教師海外研修で撮った写真(野口英世記念館やガーナで研究をしている方々等)

<教材14> JICA 国際理解教育実践資料集 「私たちの生活とアフリカとのつながりを考える」

<教材15> 教師海外研修で撮った写真(青年海外協力隊やシニアボランティア、専門家の方、JICA 等)

<教材16> JICA の広報動画 「子ども向け もっと知ろう世界のこと～JICA は世界とともに～」

## 11 時限目「みんな違ってみんないい」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「3分間で知っている国名を書き出そう」を6人班で同時に行い数を競い合う。
- ② 愛知県国際交流協会 わたしたちの地球と未来「多様性は豊かさ」の「違うものを受け入れなかった人たちの」6種類の資料を配付。まず自分に配付された資料を読み、次に理解したことを班で説明し合う時間を設け、資料の内容を理解する。
- ③ 違いを認め合うとどんな世界ができるかを班ごとに派生図を使って考える。派生図を他の班に回し、良いと思う所にハートマークを記入し合う。最後に、派生図を書いたり見たりして気付いたことや考えたことを全体で交流し合う。

#### この時限のねらい

- ・多様性を認め合うことが平和で豊かな社会を作ることが分かる。
- ・これまでの学習を振り返り、「世界は多様だから面白い」「もっと世界の事を知りたい」という気持ちを育てる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 6人で3分間もあればたくさんの国を書き出すことができると思ったが、国と首都が混乱するなど、予想したより書けた数は少なかった。競争形式の活動だったため盛り上がった。
- ◇ 資料は5年生には難しいと思いながら配付したが、どの子も班の仲間に説明しなければと集中して読んだ。班の仲間に説明する時は、資料を棒読みせず、自分なりの言葉で伝えたり、仲間が話している時には理解しようと一生懸命聞く姿があった。違いを認めなかったために、実際に戦争や紛争、差別などが起きたことが概ね理解できた様子であった。そこで、ガーナでも「奴隷貿易」という悲劇が起きたことを、ケープコースト城の写真等を見せて話した。子ども達が驚きや悲しみに満ちた表情で話を聞く姿が印象的であった。
- ◇ 模造紙に「違いを認め合う」と中心に書き、派生図を書く活動は、どの班も「笑顔が増える」「平和になる」「安心できる」「貿易が盛んになる」「豊かになる」など多くの言葉やつながり線を模造紙いっぱい書くこと

ができた。他の班に回してハートマークを付ける活動はマークが多くなりすぎ、元の派生図が見づらくなってしまったが、どの班も自分達の派生図が戻ってくるとたくさんのマークに満足している様子だった。最後の全体交流では、違いを認め合う社会の良さについて気付いたことや考えたことを多くの子が発表した。「そのために自分たちが今できることは？」と問いかけ、「帰りの会で行っているよいこと見つけを活発にする」など具体的な行動目標を出し合った。



### 3 使用した教材

<教材17> (公財)愛知県国際交流協会 わたしたちの地球と未来「多様性は豊かさ」

<教材18> 教師海外研修で撮った写真(ケープコースト城、奴隷貿易の様子)

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

<写真1> ガーナの写真に見入る児童(右)

<写真2> 動画に合わせて手づくりアサートを演奏する児童(下左)

<写真3> ポスターセッションで発表する児童(下中)

<写真4> 違いを認め合う社会について派生図を書く児童(下右)



### 2 参考文献・資料

1) JICA 広報誌・パンフレット JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/>

2) フェアトレードジャパンホームページ <http://www.fairtrade-jp.org/>

3) 世界の子どもを児童労働から守る NGO ACE(エース)ホームページ <http://acejapan.org/>

4) (公財)愛知国際交流協会 国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来」活用マニュアル Vol.2